

牛群検定通信 No63

◇ 夏！真っさかり！ ◇

大変厳しい夏が真っさかりです。乳牛達の暑熱対策をもう一度点検しましょう！暑熱対策にもう十分はありません。常にチェックするようにして下さい。もちろん、みなさんの健康管理としても十分に水分を摂って、熱中症には気をつけて下さい。

【1】 体細胞数

夏季は暑熱等で牛の体力（健康）が低下し抵抗力が減り、環境性ブドウ球菌タイプの乳房炎を罹患しやすく体細胞数が増加する時期です。環境性ブドウ球菌は、乳房の毛や乳頭の皮膚に常在している菌で、湿気が禁物です。ミストや散水を多用すると牛床が乾燥しなかったり、牛体に付着した水滴が乾燥しないことがあります。これは雨や洗浄で牛体が濡れたときも同様です。牛体を良く拭かずに濡れたまま搾乳を行うと、環境性ブドウ球菌が乳頭口から侵入して乳房炎を発症させます。牛が濡れた場合は良く拭き取るようにしましょう。また乳房等の毛を刈れば、乳房炎の予防に加え、暑熱対策としても大きな効果がありますので、是非とも励行してみてください。牛床も濡れていると乳房炎の温床となりますので、乾燥させるよう敷料は小まめに交換するなどしてください。

【2】 乳量と乳成分

夏季は乳量と乳成分が下がってしまうこともよく知られているところです。原因はなんと言っても暑熱による食欲の減退です。特に粗飼料の摂取不足になりがちです。粗飼料はルーメン発酵により牛体の発熱源にもなってしまいますので、良質な粗飼料を夜間など涼しい時に与えるようにします。サイレージの場合は、1回給餌で牛舎に大量に放置すると二次発酵により発熱し牛舎の温度をあげてしまいます。

特に、夏季は飲水が十分に摂れるようにして下さい。飲水が不十分なまま粗飼料の食い込みが思わしくなければ、相対的に濃厚飼料が過多となりルーメンアシドーシスを罹患してしまうこともあります。飲水は唾液分泌を改善し、更には牛体を冷やす効果もあることから、飲水を十分にできるように環境を整えれば、粗飼料の食い込みが改善することもあります。

【3】 繁 殖

夏季には繁殖性が低下してしまうことはよく知られているところです。暑熱による繁殖への影響としては、「良い発情が来ないので授精を見送る」という事例が多いことがあげられます。検定成績表の見方としては、夏季は受胎率より授精頭数に注目するようにして下さい。もし、夏季の授精頭数が激減していれば、夏バテから良い発情が来ていないことが推測できます。夏季の繁殖性低下の原因は、暑熱による飼料の食い込み不足などいろいろなことが関与しています。送風の状態、日陰、屋根、湿気、乳房炎、飲水等、いろいろなところをチェックして下さい。